
X・B・S セナと鈴音の場合

セイバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

X・B・S セナと鈴音の場合

【Nコード】

N6853P

【作者名】

セイバー

【あらすじ】

聖なる夜の愛の物語。それはひとつの事故から始まった。クリスマス小説第十六弾です

鈴音

「セーナー、早く早くーーーー」

セナ

「待つてよ、鈴音」

今日は12月24日。セナはアメフト部の帰りに鈴音と一緒に帰っている。

鈴音

「ねえ、セナ」

セナ

「何？」

鈴音

「あたし達つてさ、なんか恋人みたいだね」

セナ

「すつ、鈴音！？／＼／＼／＼」

セナは驚いた。今までそうだとは思われていないからだ。

鈴音

「あと、まも姉がね、セナをよろしくつてさ」

セナ

「まもり姉ちゃんが！？」

鈴音

「それじゃ先に行つてくるね」

セナ

「あ、鈴音！！」

セナが鈴音を呼び止めようとしたとき、突如車が鈴音の近くに突っ込もうとしたのだ。

鈴音

「へ？」

セナ

「危ない!!」

セナは光速の走りで鈴音を抱きかかえ、道路を抜き去った。

セナ

「大丈夫？ 鈴音」

鈴音

「う、うん・・・／＼／＼／」

セナ

「え？ うわぁ！／＼／＼／」

セナは鈴音の状況を見て赤くなった。鈴音をお姫様抱っこで抱えていたからだ。

鈴音

「セナ・・・、ありがとう」

そういうと鈴音はセナの唇にキスをした。

セナ

「す、鈴音？／＼／＼／」

鈴音

「すこしボリウムアップしたクリスマスプレゼントだよ」

セナ

「鈴音・・・。それじゃ帰ろっか」

鈴音

「うん!!」

こうしてセナと鈴音は手をつなぎそれぞれの家に帰っていった。空には雪が降っていた。

そして数年後

セナ

「それじゃ、行ってくるよ」

鈴音

「いつてらっしゃい、ダーリン」

数年後セナと鈴音は結婚した。セナは海外のアメフトチームにスカウトされ、アメフト選手へとなった。そして鈴音はセナを支える、妻となった。二人の指にはそれぞれの結婚指輪がはめられている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6853p/>

X・B・S セナと鈴音の場合

2010年12月25日08時51分発行